

麦づくり情報(No.3)



1. 麦作況情報田の生育概況(2月28日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/7	18.8 (108)	1074 (113)	6.4 (-0.3)	37.7 (-5.0)	草丈は平年よりやや高い。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年並。
		平年値	12/10	17.4	950	6.7	42.7	
大 和	シロガネコムギ 6条播き	本年値	11/20	23.0 (105)	1106 (152)	7.6 (+0.9)	44.9 (+0.7)	草丈は平年と同等。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年に比べ やや早い。
		平年値	11/29	21.9	725	6.7	44.2	

参考 農試作況データ(3月1日調査)

	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
	サチホゴールド	本年値	12/10	16.3 (68)	907 (94)	5.7 (-0.9)	47.4 (+3.2)	草丈は平年より低い。 茎数は平年と同等。 葉令からみた生育はやや遅れて いる。
		平年値	12/10	24.1	960	6.6	44.2	
	シロガネコムギ	本年値	11/19	27.3 (71)	651 (86)	6.9 (-0.7)	48.4 (+4.7)	草丈は平年より低い。 茎数は平年より少ない。 葉令からみた生育はやや遅れて いる。
		平年値	11/20	38.3	755	7.6	43.7	

気象概況

2月3~6半旬の平均気温は2月4~5半旬に寒波に見舞われたこともあり低温で推移した。降水量は降雪があったが平年の39%と非常に少なく、日照時間は平年の118%と多照であった。

生育概況

○11月中旬播種の小麦は現在7~8葉期となっており、茎立ち期を迎えている。分けつの発生も旺盛で平年よりも早い生育となっており、11月中旬播きでは現在節間長20mm、幼穂長2mmとなっている。

○12月上旬播種の大麦は現在6~7葉期となっており、幼穂形成期を迎えている。初期生育が少雨・乾燥で遅れたものの生育は回復し、現在は平年並みとなっている。

★大麦・小麦とも生育不良や葉の黄化または赤変などの症状が一部の圃場で散見される。要因としては、少雨による水分ストレスや土壌の低pHなどが複合的に関与して発生しているものと思われる。(水分ストレス低減には降雨を待つしかないが)生育不良、葉の変色が見られた圃場は土壌pHを確認し、低下(特にpH5.5以下)が見られても対応策がないため、次作において播種準備時に必ずpH矯正のための土壌改良材投入を実施する。

病害虫発生状況

◆網斑病…大麦の一部圃場で発生が確認されている

2. 今後の管理

○穂肥施用について

◎近年、大麦・小麦ともに、タンパク質含有率が低い傾向にある。品質確保のため、必ず穂肥を施用する。

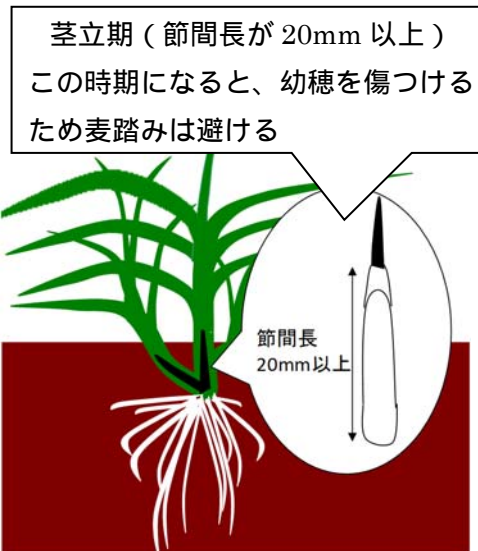
穂肥は茎立期（草丈20~25cm程度）前に施用する。茎立期を迎えている圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

◎肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

ビール大麦 【タンパク質含有率値の目標：10~11%】

葉色が濃い圃場を除いて、BB602で20kg/10aを基準に施用する。

小麦 特にパン用小麦・チクゴイズミは、タンパク質含有率確保のため、必ず穂肥を実施する。



今年の2月降水量は
24mmである。

	2月の月間降水量 平年値:77mm	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 BB602(N成分)/10a
大麦	50mm以下	42以下	15(2)kg
		43以上	施用しない
小麦		地域のこよみに準ずる	

○排水対策

今後降雨量が増えることが予測される。湿害により根の生育が抑制され、登熟に影響するため、排水溝を再整備するなど排水強化を行う。

○病害虫防除

◆網斑病

網斑病の発生が確認されている圃場では、症状の進展具合を確認し適期防除を行う。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用 回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回	散布

○雑草対策

徐々に雑草の発生が目立つようになってきている。

特にミチヤナギの発生が目立っている。

除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。



ミチヤナギ

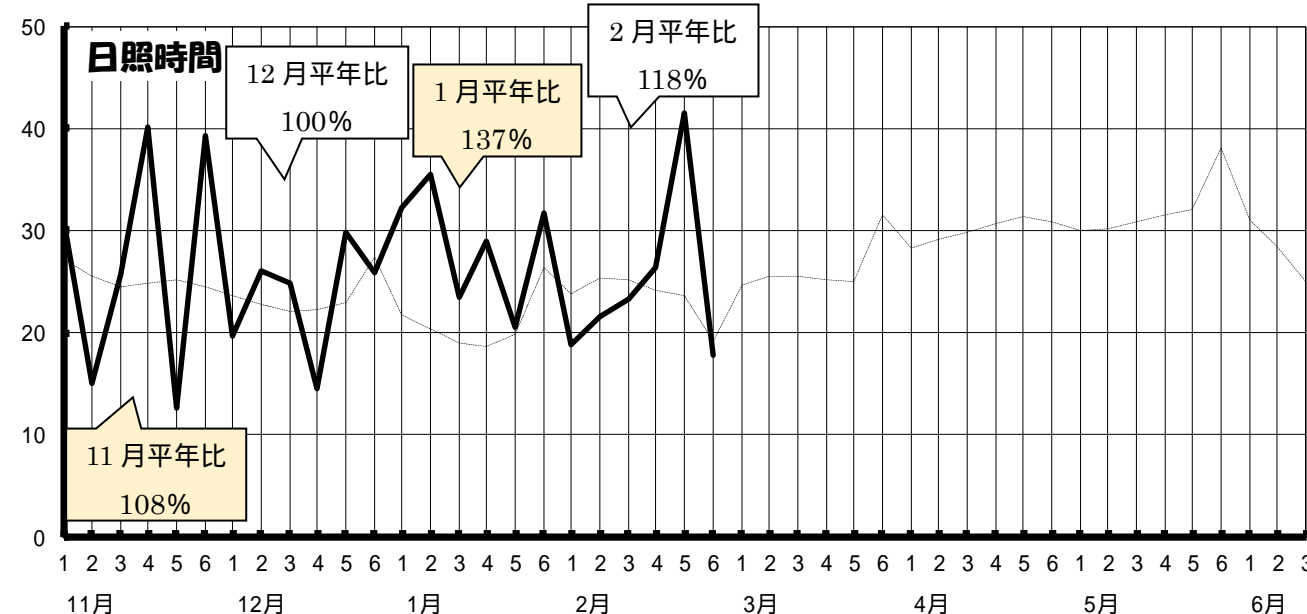
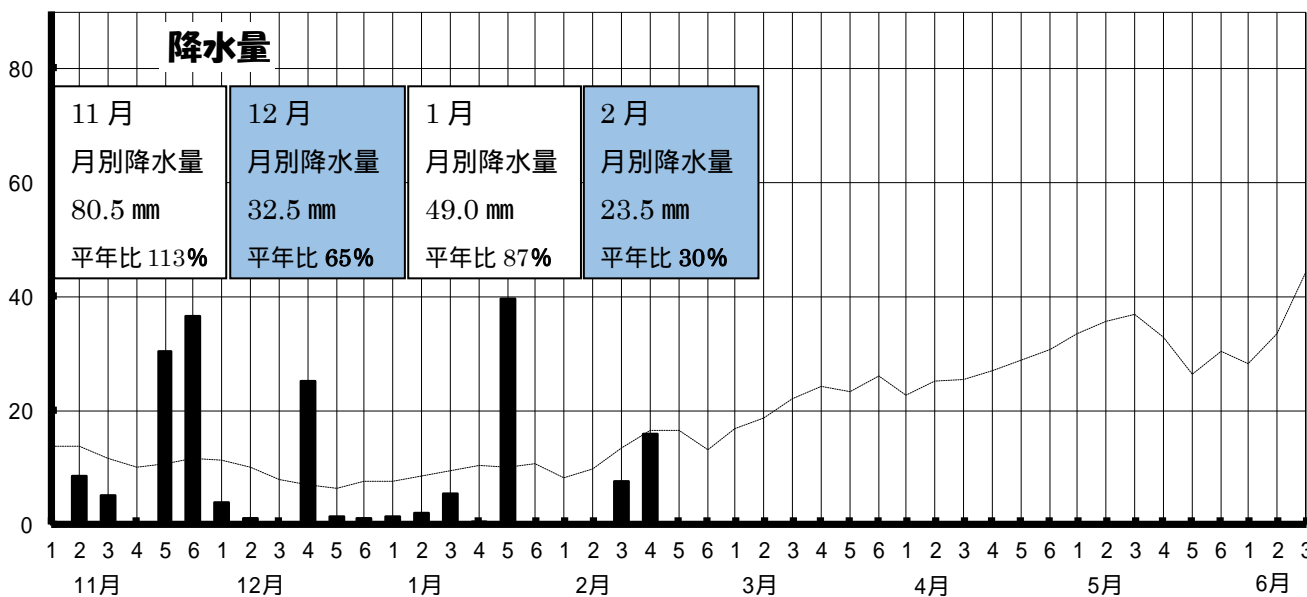
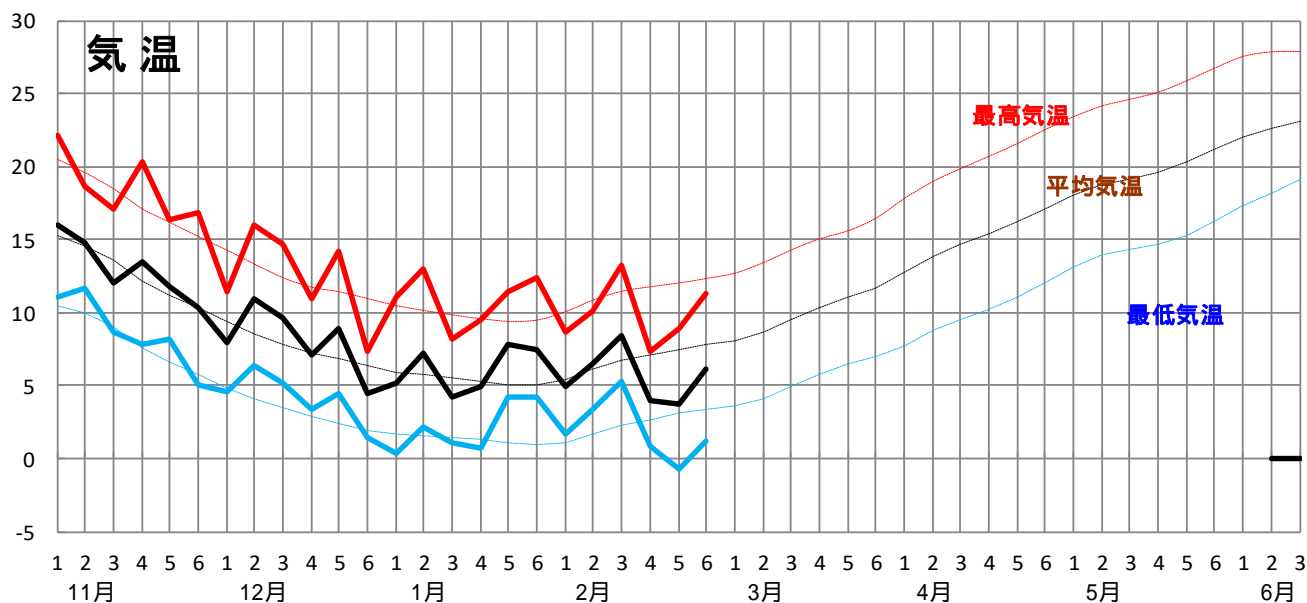
農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 双メテポウ 加ノコグサ	5~10g	100L	は種後~節間伸長前 (双メテポウ5葉期まで) (加ノコグサ1~3葉期まで) ※小麦のみ は種後~穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> 加ノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期) (広葉発生揃~6葉期、ヤエムグラ4葉期まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期(雑草3~6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

※エコパートフロアブルについて、適用時期を過ぎた使用は著しい薬害が発生する。使用時期については薬剤のラベルを確認し、散布する。散布は“節間伸長開始期まで”。

令和3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値